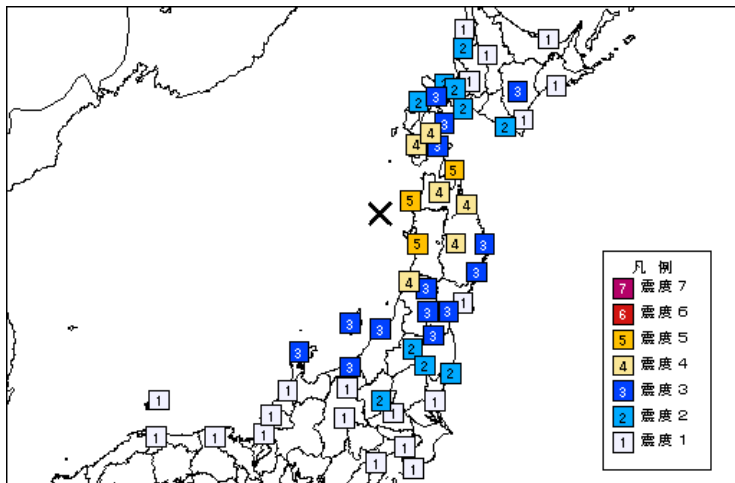
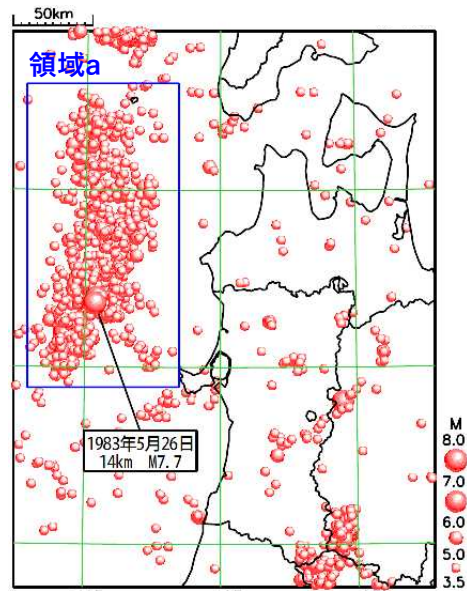


昭和58年（1983年）日本海中部地震



震度分布図

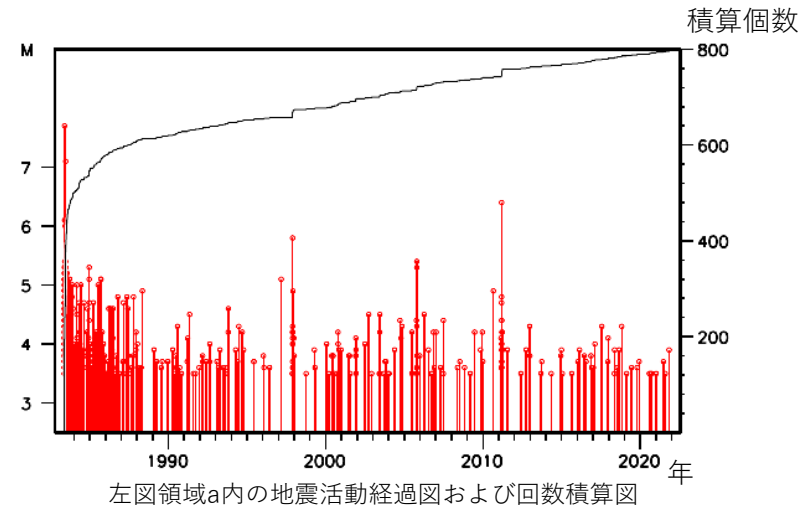


震央分布図

1983年5月1日～2021年12月31日
M3.5以上 深さは40km以浅

この地震及び津波により百名を超える死者を中心に、建物被害、船舶被害等大きな被害が生じた。特に津波による被害は日本海沿岸の8道府県の広い範囲に及び、死者の大部分は津波によるものであった。また、日本海の対岸の朝鮮半島やソビエト連邦（現ロシア）でも死者を含む大きな津波被害があった。津波の高さは、現地調査によると、痕跡高の最大で秋田県八竜町の6.6mであった。
(気象庁技術報告より)

余震活動は、本震発生以降、数か月程度活発であったが、次第に減衰している。

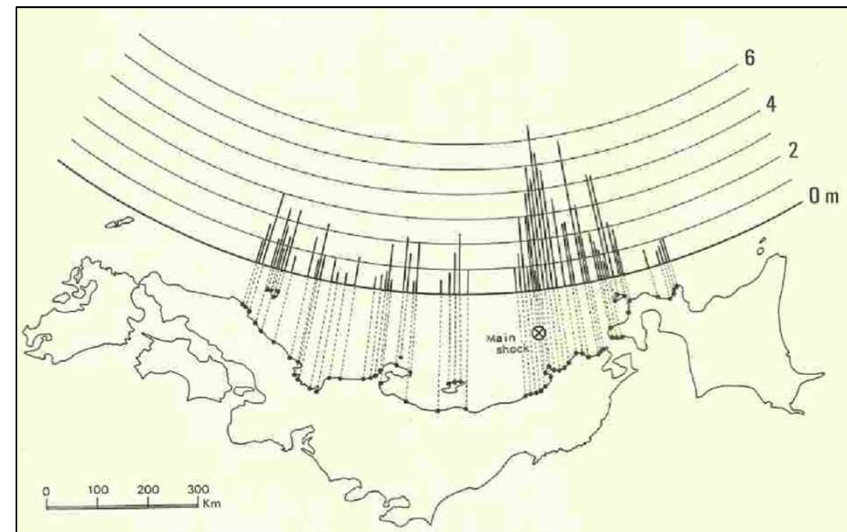


左図領域a内の地震活動経過図および回数積算図

■地震の諸元 (気象庁カタログによる)
 発生年月日 昭和58 (1983) 年5月26日
 震央 秋田県沖
 マグニチュード 7.7
 深さ 14km
 北緯 40度21分 東経 139度04分

■被害 (全体) (気象庁技術報告より)

死者	104人
負傷者	324人
住家全半壊・流失	5,099棟
船舶沈没・流失	2,598隻



現地調査による津波の高さの分布図 (気象庁技術報告より)

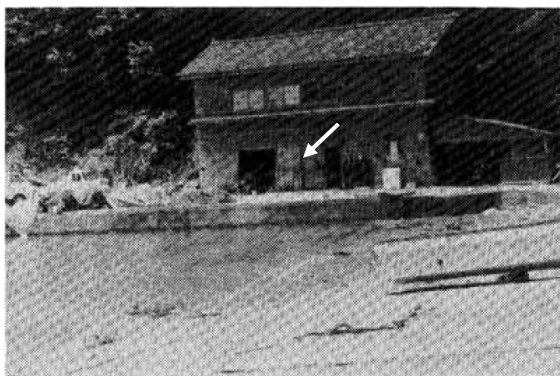


昭和58年（1983年）日本海中部地震 ～大阪管区気象台管内での被害～

大阪管区気象台管内では、日本海側に面する4府県で津波による被害が発生した。このうち、被害の大きかったのは島根県隠岐地方である。1964年の新潟地震の際にも隠岐地方の一部で軽微な浸水被害があったが、日本海中部地震では、浸水の範囲が広く、また、多数の漁船が沈没・流失するなど本格的な津波被害となった。次いで被害が多かったのは島根半島（主として東部）で、その他の地域では、京都府の沿岸と兵庫県の一部で漁船に被害があった。

被害の内容としては、漁船の被害が目立ち、人的被害については死者はなく負傷者が出たに止まった。

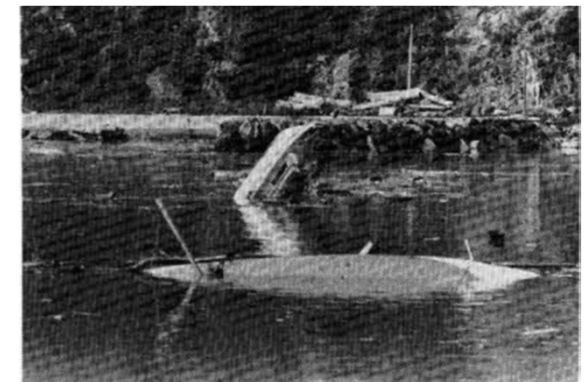
	京都府	兵庫県	鳥取県	島根県
人的被害 (負傷者)				5人
住家被害 (床下浸水など)	3棟			418棟
船舶被害 (破損、転覆など)	25隻	27隻	4隻	319隻



倉庫入り口の半分の高さまで浸水の跡がある（白矢印）
（舞鶴市野原港、舞鶴地方気象台）



壊された木橋（手前）と転覆した漁船
（島根県西郷町中村川、西郷町役場提供）



転覆した漁船
（島根県八束郡美保関町雲津漁港、
美保関町役場提供）